

J R 四国労組ニュース

平成31年4月23日（No22／1）

発行責任者／中濱 斉

編集責任者／森安 祐貴

「線路閉鎖工事に伴う列車誤認」について （申し入れに対する会社回答）

4月6日、予讃線中萩～伊予西条駅間において、高松CTC指令員が列車在線位置を誤認したことにより線路閉鎖工事の承認を与えたことから、同駅間に回送列車が進入するという事故が発生した。本部はこの事故に対し発第82号「線路閉鎖工事に伴う列車誤認について」申し入れを行ったが、会社より以下のとおり回答があった。

【発第82号 線路閉鎖工事に伴う列車誤認について】

1 今回の事故をどのように受け止めているのか明らかにされたい。

（会社回答）

今回の線路閉鎖工事は、線路閉鎖区間である中萩～伊予西条駅間の作業区間において、バックホウを使用しレール受台を設置する作業でした。幸いにも線路閉鎖区間に進入した列車を作業区間の約1.9km手前で停車させることができましたが、一歩間違えば作業員及び乗務員の死傷事故や列車脱線事故に繋がる重大な事象であり、決して発生させてはならない事象と重く受け止めています。

2 今回の事故の原因を明らかにされたい。

（会社回答）

【高松CTC指令員】

線路閉鎖工事監督者より、線路閉鎖工事第1間合い着手の連絡を受けた高松CTC指令員は、線路閉鎖工事施行時の手順を遵守せず着手承認を行いました。その後、線閉テコを扱おうとしたとき、回1089M列車の列番が新居浜～中萩駅間窓に在線していることを認め、線路閉鎖工事記録簿と整理ダイヤを見直し、回1089M列車が現場をまだ通過していないことに気付きました。同指令員は、とっさに作業員を待避させなければならないと考え、工事監督者に電話連絡を行っていた際、回1089M列車の列番が中萩駅構内窓に移動したため、回1089M列車への無線連絡により停止手配を行いました。

【線路閉鎖工事監督者】

線路閉鎖工事監督者は、作業着手の約1時間前に高松CTC指令員と運転知照を行い、臨時列車（試9199D列車）の運転及び列車ダイヤに4分ほどの遅延があることの打合せを行いました。

J R 四国労組ニュース

平成31年4月23日（No22／2終）

発行責任者／中濱 斉

編集責任者／森安 祐貴

線路閉鎖工事監督者は、線路閉鎖工事第1間合い着手前の最終列車（回1089M列車）が現場を通過する時刻に、遅延により1列車前の試9199D列車が通過したため、回1089M列車が通過したと誤認し、線路閉鎖工事第1間合い着手の連絡を行いました。

今回の事故原因は、線路閉鎖工事監督者が作業着手前の最終列車を誤認し高松CTC指令員に着手の連絡を行ったこと及び連絡を受けた高松CTC指令員も線路閉鎖工事施行時の手順を遵守せず、作業着手の承認を行ったためです。

3 今後のハード対策を含めた実効性ある対策について明らかにされたい。

（会社回答）

今回の事故は、人命に関わる重大事故に繋がる可能性があったことから、以下の対策を徹底し再発防止を図ります。

【高松CTC指令員】

事故発生後、4月6日より3日間緊急の業務研究会を開催し、以下の内容について教育・指導を図りました。

- (1) 今回のヒューマンエラー事故は、作業員及び乗務員の尊い人命を奪うとともに列車脱線に繋がる重大な事象であることの意識付けを図りました。
- (2) 線路閉鎖工事施行時の着手手順の再徹底を図るとともに、特に、着手承認においては、関係信号機に進行を指示する信号を現示させない処置を行ったあとでなければ、絶対に工事の着手に承認を与えてはならないことの徹底を図りました。
- (3) 緊急時には、躊躇することなく関係信号機に停止信号を現示させる処置により、「列車を止める」ことの意識付けを図りました。

【線路閉鎖工事監督者】

線路閉鎖工事監督者は、線路閉鎖開始時刻までに余裕を持って現場に到着し、線路閉鎖開始前の通過列車の照合及び線路閉鎖開始列車の確認を確実に実施するとともに、臨時列車が走行する際は、特に注意するよう再徹底を図りました。

今回の事故は、誤認に気付いた指令員の列車無線による非常停止手配により、幸いにも大事故には至らなかったが、一歩間違えれば人命に関わる重大な事象であった。

JR四国労組は、安全の確立がすべてに優先し、尊い命を預かる私たちの重大な使命であることを再度強く訴えるとともに、引き続き、会社に対する「安全管理へのチェック機能」を強化する運動を展開する。

以 上